

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

香芝市立三和幼稚園

1. 本園の教育目標

「たのしく やさしく げんきよく生きる子どもの育成」

- よく考え工夫し、楽しく活動できる子ども
- まわりの人たちに優しくできる子ども
- 元気よく挨拶のできる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

研究主題

「様々な体験を通して、幼児の主体性を育むための環境構成と援助の工夫」
～ 幼児期育ちと学びをつなぐ ～

- いろいろな遊びに親しみ、意欲的に取り組むために環境構成や援助の工夫に努める。
- 基本的な生活習慣及び健康な生活に必要な態度や習慣の形成に努め、元気に挨拶のできる幼児の育成をめざす。
- 様々な人と関わりながら心を通い合わせ、豊かな感性豊を育てる。
- 家庭や地域との連携を深めながら教育の推進に努める。
- 特別な支援の必要な幼児の実態を把握し、心身の発達を図り、自立の基礎となる力を育てる。

3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1) 教育活動及び評価	B	「様々な活動を通して、幼児の主体性を育むための環境構成と援助の工夫」を研究主題に掲げ取組を進めてきた。「子どもの育ちの何につながっているのか」「どんな力をつけたいのか」等、幼児教育の重要性、目指す幼児像を明確にして、保護者はもちろん、小学校・地域にも発信していく必要がある。保護者には、ドキュメンテーションを作成し、個人懇談時に利用したり、ピロティに掲示したりして、園の取組や、幼児の姿や、幼児の学びについて知らせることができた。
(2) 教育の質と保育力の向上	B	・外部講師を招聘し（4回）、年間を通して実際の保育を通して研修を実施できたことは、目標やねらいが、より明確化され、保育の質向上と職員の資質向上に確実に繋がっている。「幼児の主体性を育む」には、まず、保育者が主体的に保育に向き合うことであることを心に留めなければいけない。また、一人一人に寄り添った丁寧な関わりや援助が今後一層求められる。 ・今年度も、ICTを保育に取り入れたり、職員研修に活用したりすることができた。
(3) 小学校教育との接続	B	保幼小交流会を再開した。また、実際の保育を通して、幼児の様子を参観してもらうことができた。小学校職員と交流時にも、ドキュメンテーションを見せ、園の取組を知らせることができた。児童と幼児の交流だけにとどまらず、職員間の交流を通して、幼児が遊びを通して気付いたり、発見したり、挑戦したりする姿、意欲的に遊びに取り組むことや「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を具体的に伝えることができた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価・結果

- ・ 社会状況の変化とともに、保育ニーズの多様化・複雑化により、保育現場では一層、個に応じた指導が求められている。しかし、園児や保護者への丁寧な対応が難しかった事は事実である。今後も保育の質と保育者の資質向上は、重要な課題である。園児の実態把握、幼児理解に基づく実践、保育者自身の専門性やスキルの向上が求められる。研修の時間の確保と捻出、その方法の工夫をしながら進めていきたい。そのような中、常勤ではないが、看護師の雇用は、園児・保護者・職員にとって安心して園生活を送ることができる要因であった。
- ・ 未就園児交流を再開し、毎回多数の参加者があり、子育て支援と、園の雰囲気や保育内容を知らせる機会となった。

5. 今後取り組むべき課題

評価項目	具体的な取組方法
教育の質と保育力の向上	個々の職員の教材研究の努力、指導改善の工夫、そして、そのための時間の確保が必要である。職員が自ら学び続けるモチベーションを維持できる環境を整えていきたい。 必ずしも保育経験の多い、少ないではなく、これまでの保育観や保育方法ではうまくいかないことやそぐわないことも起こりうる。保育者自身が自己改革しながら自身の保育観をアップデートしていく気持ちをもって保育に取り組んでいく必要がある。

就学前教育における学びと義務教育における学びの接続	<p>幼児期で育まれた「学びの芽生え」を児童期の「自覚的な学び」につなげていく。そのためには、小学校との間で、幼児期と児童期の互いの教育内容や指導内容を知り、長期的な見通しをもった子どもの育ちについて知る努力をしていく。接続期の教育の在り方を共有することで目指す資質・能力につながると考える。幼児への保育者のかかわり方、捉え方と共に、幼児が遊びを通して学んでいること、経験していることを伝えていきたい。</p>
働き方改革の推進	<p>保育の準備・環境整備等の業務量は依然として減少しない。個々の幼児の発達や状況に応じたきめ細やかなかかわりや、保護者への丁寧な声掛け等は一層求められている。保護者の寄せる信頼と担任自身の責任感もあるが、担任教諭の業務量や負担も大きいことは事実である。</p> <p>また、今後も職員の保育技術を磨くための時間の確保や捻出に努めたい。今後も、業務内容の見直しはしていくが、園だけでは解決できないこともあり、職員の配置等、市教委に要望も含め進めていきたい。</p>

6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

- ・令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、元の園生活に戻ってきていることが保育参観を通して感じられる。行事や保育活動等、その年の状況に応じて実施しているので、園側としては様々な準備等が昨年と同様ではないので相当な苦労があったと推察する。3年以上、コロナ禍での園生活であったが、園は幼児に必要な経験を工夫しながら、させていた。子どもたちの様子を見てのびのびと園生活を楽しんでいることが伺える。年間を通して、参観する中で子どもたちが大変成長していることを感じている。子どもたちがそれぞれの活動の中で自分の思いを出せている。そのことが自然に感じられる。
- 全職員が明るく、落ち着いて保育を進めていることが感じられ、幼児に細やかなかかわりができている。
- ・交通安全について、園児には日常的に指導しているが、保護者への送迎時の交通ルールやマナーについては、繰り返し指導する必要がある。
- ・災害時、非常時等に対しての園全体（園児・職員・保護者）の危機管理意識を一層高め、そのための日頃の準備や訓練と、地域、関係機関との連携がより一層必要である。